

2011年度事業報告書

(2011年4月1日から2012年3月31日まで)

特定非営利活動法人札幌チャレンジド

【特定非営利活動に係る事業】

1. パソコン講習会事業

パソコン講習は、この近年の傾向が続いており、受講者数が減少している。時代の流れが現れているものと考えられる。講師会議では今後のパソコン講習の方向性について議論を開始した。

2011年度は年間延べ約1,000人程度の受講者にパソコン講習を実施した。

2. 視覚障害者支援事業

パソコン講習会場での講習およびR-PASを利用した訪問講習を継続している。

件数的には増えている状況ではないが、継続的なニーズは存在している。

パソコン検定受講のニーズが顕在化している。

3. 重度障害者支援事業

2012年1月、新たな団体「iCare ほっかいどう」を設立し、重度障害者支援活動に専門的に特化して活動することとなった。NPOの活動は、利用者のニーズにどれだけ迅速且つ丁寧に応えていけるかが重要である。現在の札幌チャレンジドは様々な事業を展開しており、事業規模が大きくなったことによる課題も生まれている。それらの課題を解決し、重度障害の方の支援をより良いものとしていくために新たな団体を設立した。

4. 就労・就職支援事業

(1) 就労継続支援サービス(A型)事業

2011年度は、雇用契約者18名、非雇用契約者18名の合計36名が就労継続支援サービス利用者として仕事に従事した。

A型チャレンジドへの支払い総額

2011年度：17,744千円(前年比13%減)

2010年度：20,504千円

2009年度：17,915千円

2008年度：15,621千円

2007年度：10,577千円

A型チャレンジドの一人平均月額賃金（単純平均）

2011年度：55,975円

2010年度：55,269円

2009年度：55,295円

2008年度：51,319円

2007年度：39,175円

A型事業を始めて以来、初めて支払い給与総額が減少した。理由は、仕事の受注金額が減少したからであり、継続した仕事の受注の課題が大きくなっている。一人当たりの平均月額賃金は、前年並みを維持しているが、受注業務の単価も減少傾向であり、スキルアップによるより単価の高い仕事の受注も課題である。

(2) 就労継続支援サービス事業以外の就労支援事業

今まで通り就労継続支援サービスの利用者以外のチャレンジドに対しても在宅就労支援制度の運営の中で就労支援を継続しているが、その発注量は極めて少なくなっており、約80万円程度の金額に減少した。2010年度は約300万円であったから大幅な減少である。

A型事業以外のチャレンジドの就労支援の在り方を見直す時期に来ている。

(3) チャレンジドが従事する主な業務内容

- ① パソコン講習講師
- ② 写真加工・切抜き業務
- ③ 字幕製作業務
- ④ ネット上における監視業務（掲示板など）
- ⑤ カタログ掲載商品のデータ入力・画像編集業務
- ⑥ アンケートデータ入力業務
- ⑦ リライト業務（原稿を必要な文字数で書き換える業務）
- ⑧ データ収集業務（ネット上のデータをお客様の依頼によって収集する業務）
- ⑨ ホームページ制作業務
- ⑩ ホームページ更新・修正業務
- ⑪ アフィリエイト関連業務（商用アフィリエイトのための補助業務）
- ⑫ 商用イラスト作成業務
- ⑬ WEBモニタリング業務（ネット上のデータをお客様の依頼によって調べて報告する業務）
- ⑭ テープ起こし
- ⑮ 事務局業務 など

(4) 就労移行支援サービス事業

2011年11月から就職支援のために「就労移行支援サービス」を開始した。従来から手弁当で就職支援を行ってきたが、より本格的に就職支援に取り組むために制度事業者となった。

第一期生として9名が登録し、既に2名が就職を実現した。就労移行支援サービスとしてどのような支援が良いのか？まだまだ手探りの段階であり、今後、試行錯誤を繰り返しながら一人でも多くの就職支援を行っていく。

A型利用者の中から4名が企業に就職した。

(5) IT活用等による在宅就業支援事業

2010年度から始まった社団法人北海道総合研究調査会（HIT）からの委託事業を継続して実施した。本事業では、在宅就労に向けた遠隔講習を受講しているチャレンジドへのサポートを行っており、札幌チャレンジドの経験を活かせる事業である。

5. 行政からの主な受託事業

(1) 札幌市障がい者ITサポートセンター事業

① パソコン講習会

札幌市身体障害者福祉センター、ITサポートセンターにおいて、身体及び知的、視覚、聴覚、上下肢、盲ろう障害別に、32回の講習会を行った。

② パソコンボランティア派遣

2011年度もパソコンボランティアの派遣を順調に行った。

③ 相談業務

電話387件、メール103件、来所・FAX147件、その他202件の相談を受けた。

(2) 札幌市コールセンター就労促進ネットワーク会議事業

2008年度から継続して2011年度もネットワーク会議を開催した。

障害者を対象としたコールセンター見学会を2回開催した。

6. 子育て！北海道事業

2006年12月に開設した子育て支援のポータルサイト「子育て！北海道」の運営に関する事業。NPO法人北海道子育て支援ワーカーズと協働で運営している。

2011年12月22日、北海道の補助事業により携帯向けサイトを構築した。

北海道からの提供情報を中心に、子育て支援につながる情報を発信していく。

7. その他

(1) 秋山記念生命科学振興財団助成事業

「北海道意志伝達支援プロジェクト事業」の採択を受け、道内で重度障害者の意思伝達支援者のネットワーク作りを実施している。小さな勉強会、情報交換会なども実施している。3年間の継続助成であり、2012年度以降は、「iCare ほっかいどう」に移管して継続する。



(2) 北海道新聞社会福祉振興基金事業

「聴覚障害者へのパソコン講習技法構築事業」によって、

- ① コミュニケーション力向上を目的としたワークショップ…4 回
- ② 聴覚障害者のパソコン講習用 入門テキストの作成
- ③ コミュニケーション用手話講習会…10 回
- ④ 聴覚障害者対象 パソコン講習会…4 回

を行った。

講習に関わる講師達を対象としたワークショップでは、「否定の言葉を使わないコミュニケーション」等を学び、手話講習会では、パソコン講習の場面で使用する手話や表現、コミュニケーションを中心とした手話を学んだ。

また、パソコン入門テキストの作成については、どのようなテキストが見やすいだろうと何度も意見交換を行い、4 か月以上の時間をかけて、カラーのテキストを完成させた。パソコン講習会は、定員である8 名の方が受講し、直接講習へのアドバイスもいただいた。全体を通して多くのことに気づかされた事業だった。



(3) ヤマト福祉財団

チャレンジドの就労に活用するために画像編集加工ソフトの Photoshop 5 本、Illustrator 3 本を助成金によって購入した。本ソフトによってクオリティの高い仕事を実現することができた。

(4) 日本IBMプロボノ事業

日本IBM社のご厚意により社員の方が自分たちのスキルを活かしてボランティア活動を行う「プロボノ」の対象団体として札幌チャレンジドを選定していただいた。

約3 か月間に渡って札幌チャレンジドの活動に対してディスカッション、アドバイスをいただき、就労支援とパソコン講習についてブラッシュアップを行うことができた。

8. 総括

2011年度は札幌チャレンジドにとって大きな「変化」の年でした。8月に慣れ親しんだ札幌ビルから近隣の北苑ビルに事務所を移転。札幌ビルの閉鎖は青天の霹靂でした。札幌通運さんには長い間ほんとうにお世話になりました。今の札幌チャレンジドがあるのは、札幌通運さんのお陰と言っても過言ではありません。改めて感謝申し上げます。

北苑ビルへの移転のために内装工事や設備投資が必要となり、札幌チャレンジド始めて以来の大きな借入を行いました。1,100万円を8年間かけて返済していきます。新しい事務所は今までの事務所と比べると、広さが1.5倍できれいで良い環境ですが、家賃は2.5倍です。その分、収入を増やしていかなければいけません。

11月からは就労移行支援サービスの開始。本格的に就職支援に取り組むこととしました。サービスの開始に合わせて若い男性職員を二名採用し、事務所の雰囲気も明るく元気になりました。若い力に大きな期待を寄せています。そして3月末に長く事務局に勤めていた職員が二名、退職しました。一人は、iCare 北海道の職員として、引き続き札幌チャレンジドの活動にもつながっていきます。

このように、事務所の移転、新たな事業の開始、職員の入れ替わり、無借金経営から先行投資型経営への転換など2011年度は「変化」の年でした。このことは札幌チャレンジドの新たなステージが始まったことを意味していると考えます。NPO活動は、社会のニーズ、時代の流れに即したものでなければなりません。常に世の中の動き、ニーズをキャッチしながらより良い活動を継続していくことが札幌チャレンジドの社会的責任であると考えています。

【NPO 法上のその他の事業】

本年度は実施せず。

以上